

第46回全国豊かな海づくり大会 基本構想

1 千葉県の特徴

千葉県は、首都圏の東側に位置し、太平洋に突き出た半島となっており、地形は、200～300メートル級の山々が続く房総丘陵を除き、ほぼ平坦となっています。海岸線の長さは、531キロメートル（令和5年3月31日現在）に及び、変化に富んだ景観を有しています。

また、三方を海に囲まれている本県では、豊かな海の幸がもたらす食文化や、万^{まい}祝、大漁旗といった独自の伝統的な漁業文化、波の表現に優れた彫刻師の波の伊八や、サーフィンや野外フェスなどの豊かな自然環境を生かした新たな文化まで、多様で魅力ある文化芸術が育まれています。

このように、首都圏にありながら美しい海岸線や豊かな自然に囲まれ、魅力的な観光地や多様な文化を有しているほか、冬暖かく夏涼しい海洋性の温暖な気候から得られる美味しい農林水産物や、日本と海外をつなぐ成田空港や対岸の神奈川県や東京都とつなぐ東京湾アクアラインなどの交通インフラ、素材・エネルギー産業の国内最大の拠点である京葉臨海コンビナート、幕張メッセなどの大規模集客施設など様々な宝に恵まれています。

2 千葉県の水産業

千葉県は、三方を海に囲まれ、半島性が生んだ豊かな自然環境の下、地域ごとに特性の異なる多種多様な漁業が営まれています。

東京湾内湾地域は、全国有数の浅海漁場であり、底びき網や潜水器などによりスズキやコノシロ、カレイ類、アサリなどが漁獲されるほか、ノリ養殖業が営まれており、「江戸前」として高く評価されています。

内房地域は、内湾水と外海水の混合域であり、定置網や刺し網などにより、アジやヒラメ、タチウオなどの多様な魚種が漁獲されるほか、潮通しが良く静穏な海域特性のためマダイなどの養殖業も行われています。

外房地域は、海岸線の変化に富んだ岩礁域が広がり、刺し網や一本釣りなどにより、イセエビやキンメダイなどが漁獲されるほか、あま漁業によりアワビやサザエなどが漁獲されています。

銚子・九十九里地域は、黒潮と親潮が交わる日本有数の好漁場を有し、海岸線には長大な砂浜域が広がっており、まき網や貝けた網などにより、イワシやサバ、ハマグリなどが漁獲され、特に銚子漁港は全国屈指の水揚量を誇ります。

内水面では、コイやシラスウナギなどを対象とした漁業のほか、ウナギやホンモロコなどの養殖業が営まれています。

このように豊かな自然環境の下、地域の特性に応じて多種多様な水産物が豊富に漁獲・生産されており、特にスズキ類、コノシロ、タチウオ、イセエビ、キンメダイなどについては、全国トップクラスの水揚量となっています。

また、数多くの県産水産物の中でも、全国に誇る優れたものを「千葉ブランド水産物」として県が認定し、積極的に全国に向けて紹介していくことで千葉県の水産物の更なるイメージアップを図っています。これらの水産物は、豊洲市場などを経由して全国に供給されるほか、水産加工品の原料や観光客へのおもてなしなどに利用されており、本県水産業は地域の経済・社会・食文化を支える産業として重要な役割を担っています。

3 開催意義

千葉県では、平成4年に勝浦市で「第12回全国豊かな海づくり大会」を開催したことで、つくり育てる漁業の機運が醸成され、その後の漁業生産を維持するための種苗生産体制が整備される契機となりました。一方、近年の漁場環境の変化や漁獲量の減少など、水産業を取り巻く状況は大変厳しくなっています。

このような中、水産資源の維持増大に向け、効果的かつ現場に適した資源管理に取り組むとともに、放流用種苗の質の向上や生産の安定化を図るため、種苗生産施設の再編整備を行っています。また、地球温暖化に伴う海水温の上昇などといった漁場環境の変化に対応するため、近年本県で水揚げが増加しているトラフグの種苗放流技術や食害に強いノリの新品種の開発に取り組んでいます。さらには、漁業生産性の向上に資するブルーカーボン創出の取組や、カーボンニュートラル実現に向けて導入される洋上風力発電と漁業との協調・共生の取組、漁港を活用した直売所やダイビング施設の運営などの海業の取組を推進しています。

「全国豊かな海づくり大会」を再び千葉県で開催することは、豊かな海や河川・湖沼などがもたらす恵みを次世代に引き継ぐため、つくり育てる漁業やブルーカーボンの創出など、官民一体となった取組を推進する絶好の機会となります。また、大会や関連イベントを通じて、本県の豊かな海や河川などといった自然環境の保全に対する県民の意識向上に繋がります。さらに、豊かな海に関する文化芸術・スポーツ・観光など多様な資源・魅力を漁業と結びつけ、海業として推進する取組を県内外に広く発信することで本県のブランド価値を向上させ、水産業を核とした地域経済の活性化を図るとともに、多くの人が本県に集う機会となります。

4 基本理念

千葉県の豊かな海や河川などがもたらす恵みを次世代に引き継ぐため、水産資源の保護・管理や環境保全の重要性を県内外に広く訴えけるとともに、海に関する文化芸術・スポーツ・観光などの「千波県^{ちばけん}」の多様な魅力を発信することで本県のブランド価値を向上させ、水産業の振興と地域の活性化を図ります。

※外房・内房など地域ごとに異なる表情をもった千葉県の海には、さまざまな種類の海が存在しています。そこで「千の波を有する県」を意味する「千波県^{ちばけん}」と名付け、千葉の海の多様な魅力を表現しています。

5 基本方針

（１）水産業の振興と海のにぎわい創出

三方を海に囲まれ豊かな漁場を有し、多種多様な漁業が営まれている本県において、将来にわたって持続的に漁業を営めるよう、水産資源の保護・管理やつくり育てる漁業に加え、県産水産物の消費拡大や漁港を活用した海業の取組などを推進することにより、水産業を振興し、海のにぎわいを創出することで地域の活性化を図る大会とします。

（２）豊かな自然環境の保全と次世代への継承

海水温の上昇によるノリ養殖に適した期間の短縮や藻場が消失する磯焼けなど、漁場環境の変化に適応するため、漁業生産性の向上に資するブルーカーボン創出の取組などを推進します。

また、首都圏にありながら、半島性が生んだ豊かな自然環境を保全するとともに、海洋プラスチックごみなどの環境問題に取り組むことの重要性について県民に広く訴えかけることで、豊かな海や河川などがもたらす恵みを次世代に引き継いでいく大会とします。

(3) 千葉県^{ちばけん}の魅力発信とブランド価値向上

豊かな海がもたらす食文化、万祝^{まいわい}・大漁旗といった文化芸術、スポーツや観光などの「千葉県^{ちばけん}」の多様な魅力を県内外に広く発信することで、本県のブランド価値を高め、多くの人が千葉県に集う大会とします。

6 大会の概要

- (1) 名 称 第46回全国豊かな海づくり大会～ふさの国千葉県^{ちばけん}大会～
- (2) 主 催 豊かな海づくり大会推進委員会
第46回全国豊かな海づくり大会千葉県実行委員会
- (3) 開催時期 令和9年秋季（土曜日、日曜日の2日間）
- (4) 開催場所 式典行事：千葉県東総文化会館（旭市）
海上歓迎・放流行事：銚子漁港（銚子市）
- (5) 行事内容 ①式典行事
功績団体表彰、最優秀作文の発表、稚魚等のお手渡し、
大会決議、大会旗引継 等
②海上歓迎・放流行事
漁船などによるパレード、種苗（稚魚）放流 等
③歓迎レセプション
本県農林水産物の食材によるおもてなし 等
④関連行事
各種コンクール優秀作品展示、企画展示・県特産品販売 等
- (6) 大会テーマ等 公募により決定します。